
モンコメ！

凹麻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンゴメリー

【著者名】

N4002R

【作者略】

凹麻

【あらすじ】

モンスターハンターの世界における、少しだけ日常描寫が多めな軽い（？）物語

作品紹介

†双剣†

†大剣†

ただの主人公

「俺に個性をくれ……」

傍若無人なお姉さんハンター

「私に服従しなさい」

†ぶつ……ゲフングフン……師匠†

頼れる（？）師匠

「俺は豚なのか……（泣）」

†狩獵笛†

調合好き変態猫

「変態じやないツス」

その他いろいろ登場予定！

モンスターハンター
(時々) コメディストーリー

縮めて『モンコメー』

この小説は、MHP2ndGとMH-tri、そしてMHP3rdの世界を組み込んでお送りする、『モンスターハンター』の一次創作品です

Hプリスタで強制非表示にされたのでこいつを引っ越してきました

長文をHプリスターのやう少違和感があるかも……

サア、ヒトカリイコウウゼー！

(・'・)

執筆開始……2010.5.29

雲の合間から見える不気味なほど綺麗な月。

荒々しく音を立てて降り続ける豪雪。

吹き荒れる風。

…… いじは雪山だ。

ついこの間ハンターになつたばかりの俺は、防寒具としてマフモフ一式を着込み、この雪山に来ていた。

受注したクエストは雪山草の採取。

初めて受けたクエストに、俺は心を踊らせ、張り切つて雪山の奥まで来ていた。

奥に着いてみると、シンと嫌な鉄のような臭いが鼻を刺激する。

辺りを見回すと皿に付く血まみれのポポの死骸。

小さな群れだらうつか？

子供のポポまで無惨にも首を噛みちぎられている……

……噛みちぎられている？

大きくえぐられたポポの首。

それを確認した瞬間、俺の背中に悪寒が走る。

寒さのせいではない。

「これは移動したほうが多いな……」

そう呟いた俺は、震える足に鞭を打ち、足早に立ち去りつとしたそ

のとせ、

グオオオオオ！……！

けたたましい咆哮と共に何かが頂上から飛び降りてくる。

派手な音と振動が俺の身体を縮ませる。

マズい。

その大きな物体の鋭い眼光がこちらに向けられている。

奴は轟竜、ティガレックス。

「こんな強い奴がいるなんて、ギルドから聞いてねえぞ……」

とても新米ハンターの俺が手に負える敵ではなかつた。

数秒間見つめ合つたあと、ティガレックスは急に突進してきた。

まだ戦闘慣れしていない俺が回避行動に移れるはずもなく、持つていた片手剣を持ち、盾を構えて攻撃を防ぐことにする。

少し離れていたはずの距離が一瞬のうちに詰められ、奴の巨大な体躯が盾にぶつかった。

「つおつーー」

予想を超えた怪力に、俺は崖から吹っ飛ばされてしまった。

そして俺の意識は暗闇の中に吸い込まれていった

その後……

パチパチ……

囲炉裏で爆ぜる火の音に俺は目を覚ました。

「…お、目が覚めたか」

見上げると、知らないおっさんのに広がる自室の天井……

……あくまで俺の目に入ったのは自室の天井だ。

自室に見知らぬおっさんがいる光景なんて、決して見ていない。

体を起しあうとするが、

「おつと、まだ起き上がらない方がいい。
しばらく安静にしているんだ。」

誰だよ……

話の展開的にこのおっさんが助けてくれたんだろうが、馴れ馴れしそうやしないか？

「崖から落ちたんだろ？」

「下が雪で助かつたな」

当たり前だろ？

あそこは雪山だ。麓にあるこのポッケ村でさえ、長い間雪が積もるのだから、一年中雪が積もっている山は雪が積もっているに決まっている。

「……全身打撲に失神、それに軽度の凍傷と、まあ全治数日ってところだろ？」

さつき体を起こしてみようとしたときに気付いたのだが、体はなんともない。

強いて言つなら、足の指が結構痒いということだ。

この感じからして霜焼けだろ？

何が凍傷だ。笑わせるな。

「私としては、背中の打ち身より、身体の前面の打撲の方が気にな
るが……」

まだ話してたのかよ……。この鍛え上げた鋼の肉体を持つ俺が、氣絶
ならまだしも、崖から転落しただけで怪我などするはずがなかろう。

それより、打ち身と打撲ってどう違うんだらうな?

「まあともかく、じぱりへりへり休みたまえ

ああああああ……

……霜焼け痒つ……！

そんなことを考えてこるひ、どひやひ話を終えたたらしこおひさんが
家から出ていった。

やれやれ。

変な人にも困つたものだ。

一方的に話していく相手に反応が見られないとき、ああいつたキャラは、

「ん？ああ、すまない。名乗り遅れていたが、私はというものだ。
よろしく。

しかし私ともあわづ者が名乗り忘れるとはなーはつはつはつー！」

……とか言いそつなのにな？

まあ俺の勝手な想像だが、あながち間違つてはいないだろ？。

邪魔が居なくなつて、眠くなつた俺は携帯で時間を確かめ、眠りについた

「うう……ん……」

鳥の声で目が覚めた俺は欠伸をしながら携帯の画面を確認する。

結局一時間ほどしか眠れなかつたようだ。

まあ、今は昼間なのでそれはそれで良しとして、体を解しに散歩で
もするか。

……ん？

おい、誰だ！

奥の部屋の入口に勝手に敷居作つたのは！

あのおっさんか！

何故か今思い出したのだが、あのおっさんの体、めちゃくちゃ苔臭
かつたな……

敷居にくつついでいる苔をイライラしながら払い、そのまま帰つ。

匂こと記憶つて深く結び付いてゐるつて本当だつたんだ……

そんなひづりもいじことを考え、手に付着した苔を水で洗い流す。

不意にアイテムボックスを見てみると、何やら見覚えのないものが入っている。

まあ、どうでもいいから確認しないけど。

マフモフを着込み、よひやく俺は外に出でることにした。

外に出ると家の近くに喫のおっさんがいた。

待ち伏せてやがったな……

「お、気がついたようだな。
どうだ、痛むトコロはないか?
ふむ、大丈夫なようだな。」

一人で勝手に話進めやがって……

俺は何も反応してないのに大丈夫かどうかなんて分かるはずないだろ。

「崖下で倒れているキミを見つけたのはこの私だ。

感謝してくれたまえよ。

あのまま放置されていたら、キミは今頃氷漬けになつているトロロだ。

……無性に腹が立つてきた。

霜焼け見せてやるつか。

それに助けてくれたのはありがたいが、感謝を求めるのは気に食わん。俺のポリシーに反する。

「おっと、紹介が遅れたな。

私はこの村付きのハンター……といつても、元、だがね。」

ここに紹介ですか。

「ある飛竜に負わされたケガが原因でね……引退したんだ。で、私の後任として、キミに来てもらつことになつたワケだ」

あつるえ？

おかしいなあ。俺は自分の意思でこの村に来て、ギルドでハンター登録したんだがなあ？

「正直、その後任が、雪山で倒れていた時さぞじみつけたと思つた
がね……」

……早く散歩したいなあ。

「ま、ともかく、慣れない村で、いろいろ判らないこともあるだろ
う。」

この私に、何でも聞いてくれたまえ

……村長にでも聞くか。

「先輩からの贈り物として私の使い古しへ申し訳ないが、武器を一
通り贈らせてもらおう。」

家のアイテムボックスを見てみたまえ

あれはお前が入れたのか。

「キミがどんな武器を使うハンターかわからなかつたから、いよい
う入れておいた。」

それほどいい武器ではないがね、とりあえず役に立つだろ？

嫌な予感がするなア……

「もし、まだ自分の得意武器がなによつなら、片手剣がわたしのお薦めだ。
慣れるまではそれを使ってみたまえ」

片手剣売るつと

「あと、キミが着ていた服もボックスに入れておいたぞ。
村にいる間はいいが、外に出るなら忘れずに着ておくことだ。」

……寝ている間に俺の服を脱がせたのか……

どうつらさつ起きたとき寒いわけだ。

話を終えた苦男を無視し、浴室にとりあえず戻った。

ボックスを開けてみると……

「骨ばかりじゃねえか！」

道具屋に直行したのは言うまでもなかつた。

55052か

苔にしてはなかなかいい仕事だつたな

わざわざ家までこれだけ金を運んでくれるとはな。

何をしたかつて？

因みに、よく考えたら片手剣は俺の昔から使っている愛用のものだから売るのはやめた。

そんなこんなで臨時収入を得た俺は、新しい防具を買い、クエストを受けにいった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4002r/>

モンコメ！

2011年10月8日20時26分発行